

「アンデレの心」

マルコ 3: 16 ~ 19

■【アンデレ】

十二弟子の話の中で一人の方を分かち合いたいと思います。十二人の中で、四番目と言われているアンデレを紹介したいと思います。ガリラヤのベツサイダ出身の漁師でした。シモン・ペテロの実の弟でした。アンデレの名前の意味は人らしい、情け深い、男らしいこの様な意味を持っています。

アンデレはイエス様が選ぶ3人の代表的な弟子には抜けていました。ペテロ、ヨハネ、ヤコブはとても特別な関係でした。彼らは同じ村に住んでいて同じ仕事をして同業者みみたいな関係でした。ですから、この3人とアンデレ4人がイエス様の弟子として招かれた時には特別な関係でした。ところが、どうしてかイエス様はアンデレだけを除いて先頭の一番弟子グループに入れてしまいました。アンデレは決して抜けるような何か足りないような人物ではないのです。他人の方を抜いてアンデレを入れるべきではないかと思いました。むしろ一番下で世間知らずのヨハネを除いた方がよかったのではないかと。ヤコブをみますと大した業績を残してはいないのです。ならばヤコブを除くべきではないか。皆さんご存知の通りペテロは失敗ばかりでした。このようなトラブルメーカーをおいておくのは良くないから彼を除いた方がいいのではないかと。ところがイエス様は我々の想像を超える選択をされました。とても人情深く、情け深くとてもいい人であるアンデレを扉の外へ立たせてしまったのです。しかし、聖書を読んで見るとアンデレがこれによって気分が悪いとか、嫌だと言った部分は全くでてこないのです。あるいはイエス様を怒ったとか、恨めしく思った事はないのです。3人を妬んだり悔しいと思ったことが一回もないのです。ではアンデレとは一体どの様な人物なのか。なぜイエス様はアンデレを先頭の弟子グループに入れなかったのか。イエス様が弟子たちを呼び始める場面がでてきます。イエス様が1番最初に呼び始めた2人の弟子の一人がアンデレです。アンデレは兄であるペテロよりも先に弟子になりました。バプテスマのヨハネに習い、目を覚ます覚醒運動に用いられていました。メシアを待望する宗教心に湧いていました。

アンデレはイエス様に会ってようやくメシアに出会ってとても感動していました。この素晴らしい良き知らせを見たとペテロに伝えに行きました。そして、兄をイエス様のところに連れていきます。イエス様はペテロに向かって仰せられるのです。「あなたは今バルヨナ・シモンと呼ばれているけど、のちにケバと呼ばれるだろう。」

イエス様はペテロに一目ぼれしてしまうのです。既に一目で彼が固い岩になる事を見抜いておられました。この時イエス様はペテロを私の一番弟子にしようと思いましたが、アンデレはここまで思っていないはずで、自分の大好きな主をペテロに紹介したのです。そしたらイエス様は兄にペテロと言う名前まで付けて下さって一番弟子までにして下さいました。ところが熱心なシモンを紹介したアンデレは門の外に立っているのです。ある日は会堂の管理者のヤイロの家に行きました。その場で会堂管理者のヤイロの娘が死んでしまったが生きかえらせる奇跡を行った。ですが、その奇跡の現場には3人の弟子だけを連れて行ったのです。扉は閉じられており、アンデレは閉じられた扉の外に立っていました。あるいは、イエス様がヘンボウ山に登られて栄光の姿に変えられた時がありましたがその時もやはり3人だけが連れて行かれました。アンデレと残りの弟子たちは山の麓にいて待っていました。3年半もついて回ったけどこの状況は一向に変わらなかったのです。これぐらいになるとアンデレも怒っているのではないのでしょうか。アンデレは気が正気ではないのでしょうか。怒らないのです。損をしながら架け橋の役ばかりしているのです。

■【5千人の給食】

5つのパンと2匹の魚の奇跡のことです。男性だけでも5千人を食べさせた奇跡です。イエス様は一日中野原で人々に御言葉を取り次ぎました。そして、夕暮れ時になりました。一日中御言葉を取り次いだのでイエス様もどれ位お腹が空いていたでしょう。ところがイエス様の話が長くて終わらないのです。弟子たちは終わらせようとして、ここには何もないので早く帰らせて解決させましょう。するとイエス様は表情ひとつ変えず一言おっしゃるのです。「あなた達が食べ物に分けてあげなさい。」朝から昼そして夜、徹夜までして礼拝が終わった途端にイエス様が皆に食べ物をお分けと言ひ出します。皆が主の言葉に驚いたのです。十二弟子の中で一番知恵が早いと言われるのがピリポです。

彼の頭にはそろばんが入っているので、計算が早いのです。全員に食べさせるには200デナリは必要だと言いました。弟子たちはプツツ言いました。ところが一人だけイエス様の言葉に従い動いていた人がいたのです。全くの野原、どこにも食べ物がないのに何とかイエス様の言葉通りしようとして汗を流していた人がいたのです。弁当と少年を連れてイエス様の御前に出て来たのです。最初は他の弟子た

ちは拒否していました。唯一アンデレだけはイエス様のお言葉通りなんとか自分が捧げたいと思っていました。アンデレは自分が架け橋となって渡橋となる事を願っていました。アンデレは私がしたのですと皆に言いふらしたわけではないのです。イエス様と少年を繋げて静かに後ろに退いたのです。自分は苦労しているけど幸せなのです。アンデレにはこのような心があったのです。

■【ギリシャ人の救い】

イエス様が公生涯をほぼ終える時にギリシャ人がイエス様を訪ねてきます。イエス様が3年間の公生涯を終えてエルサレムに十字架を背負いに行かれる場面です。この場面においても弟子たちは誰が一番、二番なのか。誰が大きいのかお互いに比べていたのです。イエス様が王になられる時は私が右だ、あなたが左だ、いや前だとこのようなことばかり言っていました。このような時にギリシャ人がイエス様に会いたいと申し出てきました。イエス様はユダヤ人の為に来られたのでギリシャ人との接点はまだ無いのです。だからピリポにギリシャ人がなんとか話をかけてもらえないかとくるわけです。ところがピリポはいくらそう言われてもイエス様が会ってくれるかという確信がなかったのです。なぜならイエス様はユダヤ人だけに働きをする原則を持っておられたのです。ピリポは悩みましたが一番弟子グループの3人ではなくアンデレに相談を持ち掛けました。アンデレは悩まずにすぐイエス様に行くわけです。ところが想像とは違ってイエス様はギリシャ人をとても手厚くもてなされたのです。アンデレは聞かなくてもイエス様の心が分かっていたのです。一番弟子の3人はイエス様にピツリくっついていながらもイエス様の心を知らなかった時もありました。ところがアンデレは一歩下がった遠い状態でもイエス様の心が分かっていたのです。

■【なぜ門の外に】

十二弟子の中でイエス様の一番弟子と言われるのはシモン・ペテロです。シモン・ペテロは外見からでもトップの弟子でした。けれども影の力で働いていたのはアンデレでした。弟子の中で特に愛をもらった弟子はヨハネでした。でも反対に遠くからいつもイエス様を思い、察する心を持っていたのはアンデレです。では何故イエス様は優しいアンデレを門の外に立たせていたのか。イエス様はもう既にご存知だったのです。彼を門の外に立たせることによって、3人の弟子と外にいる九人の弟子を混ぜる事ができる。彼が外にいる事によって少年とイエス様が会う事が出来る異邦人達とイエス様が会う事が出来る。

■【アンデレのように】

アンデレにイエス様はこの説明を全くしてくれませんでした。イエス様はアンデレを信用し、大切な役割を任せていたのです。でもアンデレはそれに対しては何の辛い気持ちも持っていませんでした。イエス様に初めて出会ったその日からこの方に私の人生全てをかける決心していたのです。私の評価を何点としても、どんなポジションに立てたとしても私は気にしない。私はイエス様の為に人生の最善を尽くす事を決心する。イエス様も恨まず、あるいは同労者たちを妬まずそのようなアンデレ。ただ一つイエス様だけを愛し、イエス様だけに仕えることを生涯の目標としたアンデレ。クリスチャン全員がアンデレのポジションではないでしょうか。夫として妻として、あるいは人々に仕え、世に仕え家族にも仕えております。

さいごに

アンデレの様に喜ぶ心で愛する心で仕える心で生きていく皆さんになるようにお祈りします。アンデレは小アジアあるいはロシア地域で活躍したと言われています。世紀69年に殉教しました。アガヤの総督に鞭に打たれて命を苦しめられたと書かれています。これは柱に人を縛ってそして槍で突き刺して殺す刑です。普通ならばここで命を落とすわけですがアンデレはまだ息を引き取っていない状態です。彼はX型の十字架に張り付けて欲しいと願ひでて殉教するのです。記録によりますとアンデレが息を引き取る瞬間に一言残しました。私が見て、私が愛し、今も私の中におられるキリスト・イエスが私を受け止めてください。あなたの永遠なるその御国で私に安息を味合わせてください。アンデレがその旅を終えて御国の入り口に立ったその時にイエス様が抱きしめて迎えてくれたらいいなと思っていました。あなたがどう。本当によく仕えてくれた。良き僕。私と皆さん全てがアンデレの様な人生を迎えて生きていく神の人々になることお祈りします。

(要約者: 富岡 美千男)

(2023年7月16日)